

議会改革特別委員会

(平成30年6月7日)

○ 豊田政典委員長

じゃ、皆さん、おはようございます。

それでは、議会改革特別委員会を開会いたします。

まず、冒頭に、この委員会は8名の委員で構成いたしますが、あらかじめ代表者会議で確認されておりますとおり、無会派の無所属クラブから1名委員外議員として参加していただくということを確認しておりますし、土井議員に委員外議員として参加いただくと。それで、議論をオール四日市市議会で進めていきたいと思っておりますし、委員外議員ですから必要に応じてご発言いただくこともあるということになっておりますので、確認をさせていただきます。

それで、本日なんですけれども、事項書としては、1番の今後の進め方について、2番の議会の政策サイクルについてということで置かせていただきました。

前回のときも確認しましたが、当特別委員会で議論していきたい大きなテーマとして、政策サイクルについての新しい形、それから、二つ目に正副議長や各種委員等の任期について。相互に関連はすると思うんですけれども、この形について議論を進めて、最終的に当委員会としての案をつくり上げていきたいなど、そういう流れがあります。この二つが大きなテーマ。途中、関連した議論に少し、拡散と言うと変ですけど、関連した項目についても議論になるかもしれませんが、とにかくこの二つをやりたいと。大きくずれることは考えておりませんので、よろしく願いをいたします。

今から今後の進め方、正副委員長で工程表というかスケジュールをちょっと考えましたので、それについて意見をいただきますけれども、そもそも政策サイクルについての認識というのは、なかなか共有、統一できていないのかもしれないと思って、現時点での私の整理として、ほかの市議会の事例とかも見て、大きく2種類ぐらいあるのかなと。

あらかじめお送りした高山市議会なんかは、これは、委員会、四日市市議会と言うところの4常任委員会の中の政策形成、政策をどのように形成していくか、こういうサイクルを中心にやっているだろうと。それから、2番目の佐賀市議会とか半田市議会なんかは、決算審査と予算審査を連動させるようなサイクル、こういうのをつくっている。だから、大きく二つの見方があるのかなと思うんですが、この特別委員会で、ほかの議会の参考事例も見ながら、四日市オリジナルの一番ええ方法、これを融合した形の4常任委員会の中

のサイクルと、それから決算審査、予算審査、こういう大きな議会全体のサイクル、この二つをにらみながら融合したやつができないかと。大変複雑なことになるかもしれませんが、一番何とかシンプルな形で最終形ができればいいなど、そんなことを考えております。

その上で工程表について提案させていただくんですけど、ここまでの私の話に何か異議とか意見とか質疑とかあれば。また後で詳しくは、2番目の項目でも結構なんですけど、よろしいですか。

(なし)

○ 豊田政典委員長

とりあえず、考えておるイメージというか方向性はわかっていただけましたでしょうか。

じゃ、このところは、とりあえずそういうことにして、事項書の1番に入っていきたいと思います。

今後の進め方ということで、タブレットの中の特別委員会。この特別委員会の資料を見ていただいて、説明を聞いてください。

じゃ、事務局、説明してくれますか。

○ 栗田議会事務局主事

済みません、事務局でございます。座って説明させていただきます。

そうしましたら、会議用システム内のフォルダーでございますけれども、14特別委員会、03議会改革特別委員会、その01平成30年6月7日というところをタップいただきまして、その02の資料、検討工程表（案）というものをお開けいただければと思っております。よろしいでしょうか。

それでは、検討工程表（案）ということで、正副委員長のほうで取りまとめていただきましたスケジュールにつきましてご説明のほうをさせていただきます。

まず、検討項目ということで項目が幾つか落とし込んであるかというふうに思っておりますけれども、こちらの検討項目、上から議会の政策サイクル、各委員・正副議長任期等の見直し、それから、議会日程の合理化と、こういった部分につきましては、各派代表者会議におきまして、当初、特別委員会を立ち上げられるときに、こういう項目について議論を行いたいんだというふうなことで資料のほうにおまとめいただき、

ご説明をいただいた項目について落とし込みをさせていただいてございます。

それから、一番下段の関連項目というふうなことでございますが、こちら各派代表者会議において、特別委員会の設置についての資料説明の中に入れていただいた項目でございますけれども、こちらは必要に応じて議論というふうなことで5項目落とし込みをさせていただいてございましたので、その資料から抜粋といいますか、検討項目のほうを並べさせていただいておるといふふうなところでございます。

それから、中段あたりに決算常任委員会からの申し送り事項というふうな項目がございますけれども、こちらにつきましては2点ございまして、事業評価カルテ、それから、議員間討議の会議規則への位置づけというふうなことでございまして、これは決算常任委員会から正副議長のほうに申し送られまして、各派代表者会議において、こういうふうな項目が議長のほうに申し送られましたというふうなことでお示しいただきまして、最終的に特別委員会のほうで議論をしていこうというふうなことでおまとめいただいたものですので、こちらの項目についても工程表の中に落とし込みをさせていただいてございます。

それから、議会の政策サイクルというふうなところで、矢印のとおり議論のほうを行っていただきまして、それぞれブルーの矢印を引っ張っていただいているところを目途に議論のほうをおまとめいただくというふうな案でございまして、上段の6月、7月、8月というふうなところの下に1から6番までの数字が書いてあると思うんですが、これは会議の開催予定を落とし込みさせていただいてございまして、この6日程の中で、この項目について進めていただくというふうな案ということでございます。

それから、8月定例会議を終えまして、その後、その政策サイクルですとか、あとは議員間討議の会議規則への位置づけだとか、そういうふうな議論をしていただくに当たりまして、関係例規の改正等の必要が出てくる場合がございます。その場合につきましては、ここの段階で改正（案）についてご確認いただいた後に、その案も含めて報告書のほうに盛り込みまして、最終的に11月の中ごろに報告書の確認というふうな形でお進めいただくというふうな案でございます。

その報告書につきましては、11月定例会議の最終日に報告されまして、その後、年明けでございますが——緑色の部分ですけれども——関係委員会というふうなところでございまして、報告書の提言内容の実施について確認というふうなことで、通常ですと各派代表者会議のほうにおりていきまして、実施するかどうかという最終の確認をいただくというふうなことになろうかと思っております。

その後、会議規則、申し合わせ等の関係例規の改正について、例えば委員会条例の改正でしたら議会運営委員会ということになりましょうし、予算・決算常任委員会の申し合わせの改正が必要というふうなことでしたら、予算・決算常任委員会のほうで申し合わせの改正について確認をいただくと、そのような流れになるというふうなことでの検討工程表（案）ということでございます。

説明は以上でございます。

○ 豊田政典委員長

今期中で、この1年間の流れを置いてみたら、改めて余り時間がないなということがはっきりわかってきました。一番最後に次回以降の日程を相談させていただきますけれども、この案では7月、8月にかなり短期間での集中的な委員会を開いてもらわないと間に合わないということから、大変皆さんにご無理を言うこととなりますけれども、こういう案を提示させていただきましたので、全体について質問でもご意見でも、いろいろ出していきたいなと思います。

まず、この検討工程表（案）について、どうでしょうか。

○ 中村久雄委員

まず、この7月、8月に集中して審議をするということで、今回も今後の日程について案が示されております。この案で、8月までここで埋めてしまうと。

以前にも1回あったと思うんですけど、特別委員会をやるということで、もう先に日程を押さえてしまったら、なかなかこの議会だけ、この委員会だけじゃありませんからね、議員活動は。ほかの日程が取りにくい等々のことで何か申し合わせがあったと思うんですけど、あったかどうかわかりませんが、そういうのはありましたよね。8月の終わりまで取っているというのが。この辺は、議長のほうには承認を得ているんですかね。

○ 豊田政典委員長

現時点で。

○ 中村久雄委員

うん。

○ 豊田政典委員長

いや、議長には承認をいただいている。

○ 中村久雄委員

いただいている。

市議会全体として日程を先に押さえておくのがええのかどうか。だから、会派の視察とか云々が、みんなこれにひっかかってしまう等々のことがあるんですけど。

○ 豊田政典委員長

たしかそういう議論があったのは覚えていますけど、申し合わせまであったかどうか覚えていないんですけど。

○ 中村久雄委員

ないか。

○ 豊田政典委員長

ちょっと先取りし過ぎ感があるんじゃないかという話ですよ。

○ 中村久雄委員

うん。

○ 豊田政典委員長

これについて、じゃ、諸岡委員。

○ 諸岡 覚委員

今、中村委員がおっしゃったのは、もう話としてはよくわかるんだけど、現実問題として、じゃ、先に取ってしまったらって言ったけれども、じゃ、みんな全ての委員会が同時にというの、これも不可能なんですよ。どこかが先に取っていくことになるわけですから、それはもう、往々、変な話、この六、七年ずっとそんな議論はされておるんだ

けれども、今、委員長がおっしゃったように、みんな問題意識は共有しているけれども現実的に対応し切れていないという部分の中で、どの委員会もあいている日にちで先取り先取りしていくという現実があるわけですよ。であるならば、この委員会で先取りすることが特段今までの慣例から外れているかと言えば、別にそうでもないかなというふうに私は思います。

○ 中村久雄委員

確かに、おっしゃることはよくわかります。

これが出たのが5月ですからね、8月までか。だから、1カ月先、2カ月ぐらい先までは予定を立てておこな、なかなか一つの委員会として進められないと考えたら、まだ今、6月ですから、8月までは早いかなというふうな感じがしましたけど。そんなところですよ。

この工程表を見たら、8月までが集中的な審議で、最初が確かに大事かと思うので。

ちょっと話を変えていいですか。

○ 豊田政典委員長

はい。

○ 中村久雄委員

さきに委員長から話があったように、1番の政策サイクルと正副議長、委員長の任期なんて、本当に連動してくると思うんですよ。資料を見せていただいてやはり思うのが、どういうふうに、大概2年任期でやっているのかな、資料の場合は。その2年任期で、それで、また、その委員長とか委員会の決め方はどういうふうになっているのかななんてことも思ったわけですが。だから、この議会の政策サイクルで、うちの議会はどういう形へ持っていきたいのかということを決めて、それに必要な、今、四日市市議会では、なかなか支障になることを省いていくとかという政策が、まず大きくここを目指すんだということが決まらなかったら、なかなかこの辺のところもうまくいかないのかなというふうな感じがします。

○ 豊田政典委員長

今、言われたのは、まず、政策サイクルの形についての共通認識を持った上で工程表が

決まってくるんじゃないかなという話ですか。

○ 中村久雄委員

だから、うちがどこを目指すのかというところで行かんことにはということ。

○ 豊田政典委員長

それで、きょう、皆さんから意見をいただいて、次の予定では1カ月ぐらいありますから、その間に正副案というのを、たたき台のたたき台を整理させていただいて、それを次回までに示させていただいて、それをたたいていただくような形を想定はしています。

だから、おっしゃるとおりで、まず共通認識を持たないかんもんで、きょうはまだそこまで行きませんが、7月10日までに整理したものを皆さんに配付し、必要に応じて説明に回りたいなという相談もしているんですけど。それをたたきにして、そんなことで進めていけないかという案であります。

○ 加納康樹委員

検討工程表は、別に正副委員長でつくってもらったのでこれで全然構わないので、余りぐじゅぐじゅ言っていないで、とっとと本論に入りたいなというのが私としては本音なんです。

○ 豊田政典委員長

ありがとうございます。

○ 加納康樹委員

日程論に関して先取り云々という話もありましたけど、別に全然構わないと思うのでやっていたきたいと思うんですが、唯一気になるのは、委員長は、実は今年度の議員政策研究会の会長でもあるので、昨年、会長によって議員政策研究会の活動が1年間完璧にフリーズになっていたのも、そこの兼ね合いはお考えなのかというところだけのご留意をいただきたいと思っています。

○ 豊田政典委員長

考慮をという。

○ 加納康樹委員

要するに、議員政策研究会を今年度もフリーズのまま行くんだったらこれは入りますけど、今回またちゃんと分科会も立ち上げてということをお考えなら、大分きつくなりますよというだけです。

○ 豊田政典委員長

そうですね。

ちょっとずれますけど、議員政策研究会の会長なんですけど、考え方は持っています。ただ、まだここでは言えないので、という程度できょうのところは勘弁してください。

議会全体の話なので、議員政策研究会の分科会が仮に複数できたらよりタイトになるということを言われましたので、これも頭に入れて、全体、議長とも相談しながらその辺は進めたいと思っています。

ほかに、もう、ざっくばらんに意見をください。

○ 中森慎二委員

進め方について、まず日程の話はもうこれでいいので進めてもらいたいなど。目的を持って結論を早くまとめるためには日程を押さえないとできないので、この委員会はね。それは、各会派がそれぞれ調整しないとしようがないですわね、これは。だからこれで進めてほしいと思う。

一つ聞きたいのは、この事例の中で、高山市議会、佐賀市議会、半田市議会というところ、委員長のほうで代表的に引き出してもらってあるんだけど、これは、この三つを引き出してきたというのは、どういうところなんですか。特にすぐれている面があるということなのか、そこら辺を、もう、この話をしてもいいんですかね。ちょっと早いですか。

○ 豊田政典委員長

これは、2番目なんですけど。

○ 中森慎二委員

そうか、ごめん。

○ 豊田政典委員長

済みません。

ほかはどうでしょうか。

○ 伊藤嗣也委員

それじゃ、決算常任委員会で、事業評価カルテをつくるのにも結構いろいろ汗をかかせてもらったつもりなんですけど、一つだけちょっと委員長にご配慮いただきたいのが、会派に対して説明するタイミングも、少しその辺の配慮いただくとありがたいかなと思いますので、今後の進捗においてその辺だけお願いしたいと思っています。

○ 豊田政典委員長

そうですね。

手元に一番最後の案が行っているかと思えますけど、10日置きぐらいにあって、その間に会派で意見をもらってきてもらわないかんもので、そこも大変ご苦勞をかけるかなと思いつながら案を出しておりますので。頭にはあるんです、申しわけないと思いつながら。だから、逆にご協力願いたいなということをおっしゃってください。

○ 中森慎二委員

また関連してなんですけど、もちろん、ある時点で正副委員長から各派へ回ってもらうことも必要だとは思いますが、全議員にかかわる話なので、タイムリーに我々委員が各会派に情報提供していかないとこういう話はまとまりませんに、それだけで回っていると。だから、委員会ごとでも、会派会議の中で少しでも時間を取って会派の皆さんに説明をしていくということをしていかないと、こうなりましたと案だけぽんと出して、こんなのかという話になったら、またまとまらへんから、それは、我々が委員として自覚をしていかないかん話であると思えますね。だから、単に、短い時間で、私、会派の中で意見を時間を取っていかないかんと思えますね。

○ 豊田政典委員長

ぜひ、ご協力願います。

○ 諸岡 党委員

関連して、今、中森委員がすばらしいことをおっしゃったと思うんだけど、もう一つ言うと、どんな委員会でもそうだけれども、会派に持ち帰って結論を出してきてほしいという宿題が往々にして出るはずなんだけれども、これも、私たち委員が会派を代表してここへ出てきている以上は、宿題が出たら、その宿題はきちんとまとめてくる。会派で議論したけどまだ意見がまとまっていませんとか、もう、そういうのはなしにして、我々がもう真剣になって会派の意見をまとめてくるんだと、賛否は分かれるかもわからないけれども、だめならだめで少なくとも結論だけは出してくるというような、そういう姿勢をやっぱり1年間持っていかなあかんのかなとは思いますがね。

○ 豊田政典委員長

ぜひ、そのあたり、ご苦勞かけるとは思いますが、よろしく願いいたします。

それじゃ、検討工程表、この日程案については、この案のとおり進めさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 豊田政典委員長

ありがとうございます。

じゃ、2番目ですけど、それでは、議会の政策サイクルについてというところで、事前に3市議会の資料についてお配りしていますので、本当にポイントだけ事務局からおさらいで説明してもらった上で、ご質疑とか意見とか、あるいは四日市市議会と比べてこうだとかというところの意見の出し合いというか、そういうところに行きたいと思うんですが。

その前に、中森委員から、この3市議会をなぜ選んだんだということですが、どれを見てもらえばええんかな、会議用システムの03資料の19分の1ページを見ていただきたいんですけども、皆さん、冒頭申し上げたように、高山市議会については、これはうちで言うところの4常任委員会の中で政策を形成していくサイクルの例ではないかということ。

それから、2番目、3番目は、決算や予算を連動させるサイクルということで2種類と

も出ているというのと、特にすぐれた参考になるような市議会ということで選んであります。

ほかに、皆さんも視察へ行かれたり研究されたりしていろいろあると思いますが、三つの例として出してもらっていますので、またいろいろ皆さんの視察の成果とか研究の成果も出し合いながら詳しくやっていきたいなと思います。

じゃ、事務局からポイントだけ、三つとも説明してもらえますか。

○ 栗田議会事務局主事

では、事務局のほうからご説明のほうをさせていただきます。

資料のほうでございますけれども、タブレットの03資料の議会の政策サイクルの取り組み事例というものをお開きいただきたいというふうに思っております。

資料をお開きいただきまして、他市議会における議会の政策サイクルの取り組み事例ということで、ポイントということでございますけれども、ポイントということで19分の1ページのほうにまとめさせていただいておりますので、こちらのほうを中心にご説明をさせていただければというふうに思っております。

まず、高山市議会のほうでございますけれども、こちらは委員会活動を中心とした政策形成サイクルということで、最終的に政策提言の実施をしていただいているというふうな事例でございます。

こちらにつきましては、所管事務調査のほうを活用いただきまして、平成23年から政策提言を積極的に実施されておるといふふうなところでございます。

政策提言までの流れということでございますけれども、こちらは、各常任委員会において政策課題、テーマのほうをまず決定いただきまして、そのテーマに基づきまして、先進市の視察ですとか調査を深めながら、そして市民との意見交換会、こういうふうなものを踏まえまして政策提言（案）というのを作成いただくと。その後、全議員が参画する政策討論会、こちらにおきまして政策提言の実施についての合意形成を図りまして、最終的に執行部に対して政策提言を行うというふうな形ということでございます。

当初、高山市議会さんのほうでは、委員の任期が1年というふうなことで平成23年からは進めておられたというふうなことでございますけれども、ちょっと政策提言に係る所管事務調査が長期にわたるといふふうなこともございまして、平成25年度から委員の任期を1年から2年に延ばされておるといふふうなことで、現在では、その2年の任期の中で政

策提言を目指されているというふうなサイクルをつくられておるといふふうなことでございます。

別添資料としてP 1 からP 5 というふうなことでつけてございますけれども、実は、平成28年度の議会運営委員会の行政視察で高山市議会さんのほうを訪れていただいております。そのときの視察時の資料から必要な部分を抜粋して載せていただいておりますので、またごらんをいただければというふうに思います。

ただ、ちょっと2ページのほうに政策提言に係る委員会の年間活動スケジュールというふうなことで載せていただいておりますけれども、こちらのほうは、当初、平成23年から進められたときに考えられた1年間のスケジュール表という形でつけさせていただいておりますが、今は、先ほどお伝えさせていただいたように2年の任期に延びておるといふふうなことで、今は2年の任期の中で最終的に政策提言まで進められておるといふふうなことでございますので、その点だけ、済みませんがよろしく願いいたします。

それから、二つ目の佐賀市議会さんのほうでございますけれども、こちらは決算審査と予算審査を連動させるサイクルというふうなことでございまして、附帯決議の定例化というふうなことで実施されておるといふことでございます。

佐賀市議会さんのほうでございますけれども、こちらは、平成23年度から実は事務事業評価というふうなことで、一つ一つその事業評価をしていたというふうな経過があるんですけども、ただ、こちらの市議会さんにつきましては、時間や業務量を勘案して、より効率的な手法として、平成26年度から決算議案に附帯決議を定例的に付す形に移行されておるといふふうなことでございます。

具体的には、議案を分割付託されております各常任委員会において、議員間討議を経て最終的に附帯決議を付されておるといふふうなことでございまして、その付した附帯決議につきましては、予算審査の前までに執行部から回答書が送付されまして、それを基に予算審査に活用されておるといふふうな、そういうふうなサイクルが構築されておるといふふうなところでございます。

なお、こちらにつきましても、平成29年度の議会運営委員会の行政視察で佐賀市議会さんのほうに行ってくださいまして、資料を6ページから11ページというふうな形でつけさせていただいておりますが、こちらの資料につきましては、その視察時の資料から必要な部分を抜粋してして載せていただいておりますので、またごらんをいただきたいと思いますというふうに思っております。

最後、半田市議会さんのほうでございます。

決算審査と予算審査を連動させるサイクルということで、こちらは事業評価というふうなことで実施されておる事例ということでございます。

半田市議会さんのほうでございますが、平成24年度から事業評価を実施されておるということでございますけれども、平成27年度からは、個別事業ではなくて、総合計画の個別施策に対する評価に変更されて実施されておるというふうなことでございます。

事業評価の流れということでございますけれども、こちらにつきましては、8月下旬から10月上旬にかけて選定をした個別施策の審査を各常任委員会の分科会毎に行いまして、事業評価の取りまとめを行われておるということでございます。

その後に、全議員が参画する議員総会のほうが開催されまして、内容確認、必要であれば修正等を行いまして、市長へ評価結果の通知を行われておるというふうなところでございます。

なお、評価結果の通知に対しまして、市長のほうから予算審査の前に報告を受けておられるということでございまして、それを活用しながら予算審査のほうを進められておる事例ということでございます。

別添資料として12ページから18ページということでつけさせていただいておりますけれども、こちらにつきましては、ちょっと事前に半田市議会さんのほうにお願いさせていただきまして、視察対応のときに使われるような資料というふうなことで、ちょっと事前に頂戴をして添付のほうをさせていただいておりますので、またごらんいただきたいと思っております。

雑駁ではございますけれども、事務局のほうからの説明は以上でございます。

○ 豊田政典委員長

説明、ありがとうございました。

そうしたら、まず、質問があれば、資料内容について、事務局からわかる範囲になると思いますが、答えていただきますので、質問、ご意見があれば。

じゃ、高山市議会から行きましょうか。4常任委員会のほうなので、高山市議会について、ご意見でも結構です、どうでしょうか。

○ 中村久雄委員

簡単な質問で。

平成23年からで、平成25年には、任期を1年から2年にふやしてやっておるということがわかるんですけども、それ以降、もう5年たっていますから、いろんなまた変化、改善なんかもあるかと思うんですけど、その辺はどうなんですか。今、平成29年度の段階で、こういうシステムをそのまま使っているのかどうか。また、改善点があるのかというところ、もしわかっておったら教えてほしいなと思います。

○ 豊田政典委員長

事務局、わかる範囲で教えてください。

○ 栗田議会事務局主事

事務局でございます。

大きく基本的なベースというふうな部分ではお変わらないのかなというふうに思っております。視察を行っていただいたタイミングも平成28年度というふうなことでございますので……。

○ 中村久雄委員

じゃ、平成23年というのは。

○ 栗田議会事務局主事

行政視察ですね。議会運営委員会のほうで行政視察へ行っていただいております、それは平成28年度のタイミングで行っていただいておりますので、そのときの資料を抜粋してございます。そこからまだ余り時間も経過してございませんので、余り大きく変わっておるということはないかなというふうに認識してございます。

○ 豊田政典委員長

大筋は変わっていないけど、この2ページのところが、これが当初の1年サイクルのやつなので、今は2年でやっているということで。

○ 中村久雄委員

じゃ、それが平成23年度のとときやったんやね、この資料が。

○ 豊田政典委員長

平成28年度や。

○ 中村久雄委員

平成28年度。俺の聞き間違いか。

○ 豊田政典委員長

はい。

○ 中村久雄委員

これ、平成23年度というのは何ですか。

○ 栗田議会事務局主事

ごめんなさい。おっしゃられている2ページの部分の年間のスケジュール、これは、おっしゃられるとおり、平成23年当時の年間スケジュールというふうなことで、視察時にもこの資料を用いられて先方から説明があったと。

ただ、今は2年間の任期に延びておりますので、2年の任期の中でやってございますのというふうな説明が先方からあったというふうなことでございます。

○ 中村久雄委員

了解です。わかりました。

○ 豊田政典委員長

また、高山市議会も、もし深掘りする必要があるのであれば、2年のサイクルの、この2ページのやつがあるといいかなと思ったんですけど。

ほかに、高山市議会についてはどうでしょう。

○ 諸岡 覚委員

この高山市議会のシステムをぱっと見て私が直感的に思ったのは、うちが議員政策研究会でやっていることとほぼ一緒なんだなと。議員政策研究会でやっていることを、それぞれの4常任委員会でやっているんだなという。いわゆる議員政策研究会における分科会を4常任委員会でやっているんだなというのを直感的に感じたんです。

さっき委員長がおっしゃっていたように、別にこれをそのまままねするわけではなくて、四日市市議会のオリジナルをつくっていくという目的なんですけれども、こういうことをやっていったときに、最終的に議員政策研究会のあり方をどうしていくのかなというは一つの課題なのかなとちょっと思いましたね。今後の課題として。

以上です。感想です。

○ 豊田政典委員長

先ほどの加納委員の意見にも関連してくるので、僕の今考えていることは言いませんが、議員政策研究会のあり方についてここで議論するのはこの特別委員会の範疇だと思うので、もし関連して意見があれば。逆に、四日市市議会が議員政策研究会をこうしたほうがいいんじゃないとかね、そういうのは議論をしたいなというところですね。

四日市市議会は、今、現状こうだけれども高山市議会ではこうやっているということで、質問でも結構ですし、意見でも感想でも提案でも何でもいいんですが。4常任委員会のサイクルというところで。

今のところ、こんなところでしょうかね。よろしいですか。もう少しあれば。

中森委員、お願いします。

○ 中森慎二委員

高山市議会も関連することなんですけれども、冒頭、委員長のほうから高山型と半田型をミックスしたようなものを目指したいという話の中で、かなり委員会としての業務量というのもタイトになってくると思うんですけど、そういう両方とも折衷したようなやり方をしている市議会というのは、あったんですか。

○ 豊田政典委員長

そこまで見ていないな。うまくリンクした例って、僕より事務局のほうが、申しわけないですけど、詳しいので聞いてみますか。

ありますか。

○ 栗田議会事務局主事

事務局でございます。

それぞれの市議会さんのほうで決算と予算というふうなところの連動というのは工夫されておるとは思いますけれども、やっぱり特徴的な事例として照会があるのは、ばっと抜き出されて照会があるというふうなことでございまして、ちょっと、済みません、そこまで、特徴的な事例のほかにも、ミックスされて実施されている事例があるかというのは、ちょっとごめんなさい、この段階ではなかなかお答えが難しいかなというふうには思っておりますけれども。申しわけございません。

○ 中森慎二委員

それだけに、目指すべきものの価値があるのかもわからないですけど。

そうですね、結構です。

○ 豊田政典委員長

副委員長、何か事例か何か。

○ 中川雅晶副委員長

事例というか、この間、議員研修会で江藤先生が来られたときに、資料として飯田市議会の1年間の流れというところの表を見ると、議会報告会からいただいたものを起点にしての政策サイクルと、それから、行政評価で決算審査への反映というところからのサイクルと、両方入っているんで、こういうイメージかなというのは事例としてはあるのかなと思う。

ただ、中身はちょっとよくわからないので、一応紹介された先進事例というところからの情報です。

○ 豊田政典委員長

今、飯田市議会の例というか、そういうところもあるんじゃないかという紹介をいただきました。

○ 中森慎二委員

結局、今まで四日市市議会がやってきたことは、これらの先進的にやっているところの市議会と名前とか名称とかやり方が違うだけで、諸岡さんもおっしゃったような議員政策研究会で担っていることとか、常任委員会の議会報告会でいただいた意見を各常任委員会に持ち帰って峻別していますよね。あれがもう一段突っ込んだ意見交換がされていないと思うんですよね。峻別はしているんだけど。だから、足掛かりは我々もやっていると思うんですよ。だから、今までやっていたものを模様がえをして、どのような仕組みにしていくのかと。それをシステム化して、名称も変えて、ある意味、その常任委員会の責任を持たすために2年制というものにすることがより議会の権能を高めるという話につながっていくという、そういうようなイメージで、私、今、思ったんですが、そんな感じですかね、やっぱり。より強化するものがもちろん入ってくると思うんですけど。

○ 豊田政典委員長

委員長の主観も入りますけれども、四日市市議会がさまざまな取り組みを重ねて積み上げてきている。これが全体的なサイクル的なものにまだまだ整理されていないのかな、連動性とかね。

それから、通年議会になったけれども、追加されてきて、うまくつながっていないのかなというイメージがあると。それから、ほかの市議会の事例なんかで、さらにつけ加えたり、入れかえたりする点もあるかもしれないなど。そんなイメージがあるので、今、言われた中森委員の意見に、基本、相違はないです。

ほか、高山市議会というか4常任委員会のサイクルについて何かありますか。

(なし)

○ 豊田政典委員長

とりあえず、ここままでいいですか。また後で戻るかもしれませんが。

そうしたら、もう一個というか、佐賀市議会と半田市議会。これは決算を予算に連動させるサイクルで、似ていますけど、四日市市議会の懸案のというか事業評価カルテにも連動するような形になっていますけど、これについて、質問でもご意見でも感想でも何でも

結構ですが。決算、予算のサイクルのほうですね。

○ 太田紀子委員

さっき中森さんも言われましたけど、大きくずっとこの間から見ていると、四日市市議会が事業評価カルテも今、考えているじゃないか、常任委員会でも、いろんなことをやっているじゃないかみたいところが本当に多いもので、さっき言ったように、逆に一つ一つというよりも、つなぎ合わせてリンクさせていくという検討をする。

それと、あと、1年という時間でなかなかこれを全部するということはできないんだったら、2年ということも考え合わせていくのは当然だと思います。基本は、本当にできているんだなって、1年生議員の私がこの3年間を見ていても多々思うところがあるので、話をもっともっと先に進めていけるという部分で、物すごくタイトな今のスケジュールなんですけれども、結論づけるのはまだまだ先になるのかもわからないですけど、今あるものを先に見直すということも大事なんじゃないかな。そこから、こういうあれで、何をすればよりいいものができるのかという議論ができるんじゃないかなって私は思ったんですけど。

○ 豊田政典委員長

というご意見ですが、ほかの方はどうですか。

○ 諸岡 党委員

今おっしゃった中で一つひっかかるのがあって、2年かかってもいいというのは、どういう意味なんですか。

○ 豊田政典委員長

サイクルのことや。

○ 太田紀子委員

サイクルです。高山市議会が任期を2年という、そういうあれで。市民の意見を聞くというのは、今までの議会ではなかったことを取り入れるとかということ考えた場合に、余り……。

○ 諸岡 党委員

了解しました。

○ 豊田政典委員長

この特別委員会が2年かかってもということじゃなくてということですね。

○ 諸岡 党委員

了解です。

○ 豊田政典委員長

ほかにどうですか。四日市市議会の現状についての考えでも結構ですし質問でもいいんですけど。

(なし)

○ 豊田政典委員長

一通り意見をもらっていますので、この辺で委員外議員の土井議員、何かあれば。

○ 土井数馬委員外議員

今のところありません。

○ 豊田政典委員長

今のところないですか。ありがとうございます。

あと、先ほどから四日市市議会の現状の取り組みについてという話も出ているので、次回までに何か整理して、必要な資料ってありますか、四日市市議会の現状について、こういう形のものをつくってほしいというのがあれば。

○ 中森慎二委員

今、申し上げた議員政策研究会もしかり、常任委員会での議会報告会でいただいた意見

の整理の仕方であり、現状のリンクしていくものについて何が足りないのかと、例えば議員政策研究会の進め方の中で、スピード感なのか、あるいは、いろいろ課題があると思うんですよね。それを解消するために今回の特別委員会で新しい仕組みを考えていく必要があるんだと。何かそういうのがイメージできるようなものにしていただくと非常に会派内にも持ち帰って話がしやすいんじゃないのかなと。改革ありきでこうなんだというのは、それはもちろん大事なことなんだけど、今のやり方の中に、四日市市議会はこういう課題を抱えているよと、だから、これをこうしたら解消できるという、何かそういうものがあると、非常に皆さんの、34人の理解が深まるんじゃないかなというふうに思うんですけど。ちょっと事務局も大変かわからんけど、箇条書きでもいいと思うんですけど、そんなようなものがあるとありがたいな。

○ 豊田政典委員長

わかりました。現状の四日市市議会の取り組みの整理、課題も含めて。一生懸命つくってみます。

ほかに、資料請求でも結構ですけど。

○ 中森慎二委員

もう一ついいですか。

佐賀市議会の7ページ、19分の8、一番下のところ、取り組みに当たっての今後の課題というのが途中で切れているんだけど、ここが、それぞれの市議会がやってみたけどどんな課題があるのかというのも、ちょっとやっぱり知りたいなと。それを、やっぱり四日市市議会版にはそうならないような工夫ができれば、よりいいものになるんじゃないかと思うので、その辺、この3市議会の、やってみたフォローというか課題整理みたいところ、もし資料があるなら取り切ってもらおうとありがたいな。

○ 豊田政典委員長

そうしたら、3市議会それぞれについて問い合わせさせていただいて、入手可能であれば、また紹介させていただこうと思います。

あとはどうでしょうか。ほかに、例えば、余りほかばっかりいじるのもあれですけど、ここの市議会って、少し調べて資料が欲しいとか、ここはこういうことをやっているみた

いだよというのあれば出してやってほしいなと思うんですけど。特にないですか。

○ 中森慎二委員

ちょっといいですか。

大津市議会、この間も行ってもらったと思うんだけど、あれは議会運営委員会でしたかね。大津市議会が地域の大学等との連携をうまくやっているんですよ。諸岡さん、前、行ってもらって、えらいことご迷惑をかけたけれども、そこら辺も少し、四日市大学がいいのか、いろんなどころがあると思うんですけど、やっぱりそういう地域の大学との政策連携みたいなのところも大津市議会は取り組んでいると思うんですけど、何かそこら辺のところもちょっと参考にできたらと思うんですが。

○ 豊田政典委員長

それ、副委員長が得意なので、ちょっとしゃべってください。

○ 中川雅晶副委員長

前回のときも、大学とのパートナーシップ協定、ぜひ四日市市議会もというところで少し報告をさせていただいたりとかというのがあったんですけど、大津市議会は、比較的、例えば政策とかという部分、議会改革を含めて、政策でパートナーシップ協定を結んでいますよね、龍谷大学とか同志社大学とか、複数の大学と結んでいますし。政策でのパートナーシップでさまざまご意見をいただくという形で結ぶ方法と、それから、もう議会改革、例えば、この改革が第三者的に見てどうかというような位置になっているのかとか、もう少しこういう方向性も考えなきゃいけないのかということについて意見をいただきながらというパートナーシップと、僕は二つあるのかなって思うんです。政策的なことだけであれば、特別にパートナーシップ協定を結ばなくても、その都度その都度、大学とその専門の先生を政策的に活用するということはできるのかなと。逆に言ったら、議会改革と一緒に歩んでもらって、なおかつ向こうも議会改革の先進地であるブランドの高いところを学術的にいろいろ参考にさせていただいて、学術的な部分と、現実の地方議会というところの対比という部分では、議会改革に特化して、いろんな意見とか、こちらからもいろいろ発信するというところの、双方の対等なパートナーシップというほうが、私はこれからの議会改革に求められる方向性としては、そちらのパートナーシップのほうがより有効性が

高いんじゃないかなというふうに、私としては個人的には思っています。

○ 豊田政典委員長

今の話も踏まえて、参考になりそうな事例があれば、また資料で準備させていただきま
す。

○ 中川雅晶副委員長

ちょっと質問というか、済みません。佐賀市議会と半田市議会、双方、決算と予算の連
動のサイクルで事業評価的なところという部分は非常に似ている部分があるんですけど、
ただ、半田市議会がきわめて特徴的なのは、総合計画から評価を行う個別政策を選定して、
そこを深掘りしているという部分が、少しコンセプトがちょっと違うのかなって思うんで
すが、その辺ちょっとご説明というか詳細がわかれば。

○ 豊田政典委員長

今の質問で何か補足的な情報があれば、事務局、お願いします。

○ 栗田議会事務局主事

まず、半田市議会さんのほうでございますけれども、ちょっとお電話で問い合わせをさ
せていただいたときに、個別事業の評価から、なぜ総合計画の個別施策に対する評価に変
えられたんですかというふうなことを確認させていただいたところ、こちらにつきましては、
やっぱり総合計画を管理していくというふうな観点も非常に重要だというふうな意見
が出てまいったというふうなことで、そういうふうなことでそういうふうな方向にシフト
したんだというふうなことでおっしゃられてございました。

半田市議会さんのほうでは、事業評価を行うに当たりまして、審査の前に、もうこうい
うふうな課題設定をして、これについて深めていきましょう。先に課題設定を行うという
ふうなことでございますけれども、佐賀市議会さんのほうは、その決算の議論の中で、こ
の点はちょっと深めていかなければならないなというふうな点が出てまいったときに、そ
の点について附帯決議を付そうじゃないかというふうな、議論の中から選定していくとい
う、そういうふうなスタートの時点も違うのかなというふうなところで考えてございます。

以上でございます。

○ 中川雅晶副委員長

この政策サイクルと言っても、それぞれ起点がそれぞれ違うのかなって。例に出したところだけでも少し違うのかなって思いますし。先ほど中森委員からもおっしゃっていただいたように、もう既に四日市市議会としても、そういう十分回っていないけれども、起点としてそういう機能はないことはないというのは、もうおっしゃるとおりかなって思いますし、それを実効性を高めるという意味においては、起点として議会報告会を起点とする場合もありますし、常任委員会の所管事務調査を起点とする場合もありますし、先ほどの半田市議会のように、総合計画を起点としての政策サイクルというものもあるでしょうし、どういう起点のサイクルかということも含めて考えていかなきゃいけないのかなと思いますね。ぜひその辺も正副委員長で整理をして、次回、ご提示できればなと思います。

○ 豊田政典委員長

例えば、去年、広報広聴委員長をやっていましたが、すごく感じたのが、市民の広聴のほうですね、意見を聞くほうが大変難しいなというのを改めて感じました。

まず、なかなか意見がいただけないとか、テーマ設定の話をしているんですけど、いただいた意見を果たしてどこまで深掘りすべきなのかという疑問もあるし、数が少ない。それから、その扱い方をどうすればいいのかなというのも大変難しい課題だなというのを感じました。だから、テーマ設定をどこに置くかという話に関連づけて少し意見を言ってみました。

ほか、どうでしょう。質問でも意見でも資料請求でもいいんですが。この3市議会から、もう離れてもらって結構ですから、今後の議論に関して何なりとご意見をいただきたいなと思います。

○ 太田紀子委員

高山市議会が市民との意見交換会を経てというふうになっているんですけども、この意見交換会というのは、どういうように開かれて、年間1回とか2回とかという回数と、あと、どのぐらいの意見が、さっきの集まりにくいという観点から、意見が集まっているのかというのがちょっと気になる場所なんですけど。

○ 豊田政典委員長

これ、事務局、わかりますかね。

○ 栗田議会事務局主事

高山市市議会さんのほうで市民との意見交換会というのを持たれておるということでございますが、2種類ございまして、一つは、地域別の意見交換会というものが一つ。それから、もう一つが、分野別意見交換会というものが一つでございます。

地域別意見交換会といいますのは、全市域、うちの市議会と言うところのシティ・ミーティングに近いような形で実施をされているふうなところでございますけれども、この分野別の意見交換会というふうなことでございますが、こちらにつきましては、関係団体です。過去の事例を調べますと、まちづくり協議会さんだとか商工会議所さんとかとの意見交換会、こういうふうな場も持たれているというふうなことでございまして、何回ぐらい実施されておるかというのは、視察時にいただいた資料についておったと思いますので、またそれを参考までに資料として出させていただければというふうに思っております。

以上でございます。

○ 豊田政典委員長

よろしいですか。

○ 太田紀子委員

そうすると、シティ・ミーティングをするときに、ある程度形をつくってシティ・ミーティングに臨まないと今後だめになってくる。例えば、それが1年のスパンの事業になるのか2年のスパンの事業になるのかというあれを合わせると、結構課題というかその辺のあれも大変なあれになってくるのかなと、そんなふうに思ったのと、今までシティ・ミーティングだったら、そのときそのとき各常任委員会別であれしていたのが、共通の課題になるシティ・ミーティングが逆に開けるという意味では、また、別の意義があるのかななんて考えるもので、今後どういう展開がされるのか、その辺のまた議論も深めていく必要があるなと思っております。

○ 豊田政典委員長

そうですね。準備から何から大変になるかもしれないけど、より戦略的なシティ・ミーティング、戦略的というのは変かな、何か特化したシティ・ミーティングにしていくというのも一つの方法ではないか。そんなこともこの委員会で議論していければなと思っています。市民意見の聴取、広報について。

どうしよう。今のところもうないかな。

○ 諸岡 党委員

資料請求でもいいですか。

きょうは、ここにテーマが議会の政策サイクルについてしか書いていないけど、議長任期の2年制というほうの話なんですけど、してもいいですか。

○ 豊田政典委員長

資料請求。

○ 諸岡 党委員

はい、資料請求です。

前から私、不思議に思っておるのやけれども、基本的にどこの議会でも、日本全国共通して議長任期は4年じゃないですか。あくまでも議長、副議長の個人的な事情により1年で退任しておるだけの話で、本来4年任期があるわけじゃないですか。それを2年に縮小してしまうことをやっておる議会は幾つかあるわけなんですよね、2年任期制というのを導入して。法律で4年って決められておるやつを2年に短縮しておる理屈を、どうやって理屈をつけておるのかなという、よそのその理屈をちょっと資料で集めてもらいたい、どんな理屈づけをしておるのか。私、それがさっぱりわかっていないもので。

だから、あくまでも議員の個人的な事情を、大上段から理屈をつくっておるとか、どうやって理屈をつくっておるのか、私さっぱりわからんもので。

○ 豊田政典委員長

今、言われておったのは、この前、僕、辞表を出しましたけど、あの文章を整理せえということですか、他市や市議会の。

○ 諸岡 党委員

そうじゃなくて、いわゆる議長任期2年制を導入している議会があるじゃないですか、日本全国で幾つか。そこは、どうやって制度として2年任期を正当化しているのかなと、正当性を保っているのかなと。法律で4年って定められておるやつを2年って短縮しておることに、どうやって正当性をつけているのかなというのをちょっと知りたいんですよ。

○ 中森慎二委員

結局は、申し合わせで、1年なのか2年なのかというのは各市議会が決めているだけで、突き詰めれば、本人がやめると言うからしよがないわねという話やと思うんですよ。だけど、もし、桑名市の監査委員の方で、やめやん方がみえましたやんか。1年やのに4年やった人がおった。そういうことで、辞表を出さんだらできるわけですよ。だけど、申し合わせにのっとったものに、あなたは議長として守らんのやったら、議会は協力しやんよという話に極論になってくるので、皆さんが申し合わせを守っているだけの話やと僕は思います。

○ 諸岡 党委員

ちょっと、今は私、勉強不足やわからんけれども、今、現状、四日市市議会は、申し合わせにきちんと、議長、副議長は1年、委員長は1年って、申し合わせに明記されているということなんですか。

されていないんでしょう、多分。だから、それを、申し合わせも何も、あくまでも現状は4年任期なんですよ。現状の4年任期を2年に短縮する理屈をどうやって見つけたらええんかなというのが私はわからん。

ただ、何となく感覚的に申し合わせで1年になっておるのはわかるんやけれども、あくまでも感覚なんですよ。理屈づけするときに、どうやって理屈をつけたらええんかなと。

○ 豊田政典委員長

事務局、規定ありますか。申し合わせなり何なりの。

○ 中川雅晶副委員長

議会基本条例の中に盛り込んでおるところって、なかったっけ。

○ 諸岡 党委員

その辺のよその事例って、どんな理屈をつけておるのかなって。

○ 豊田政典委員長

一度調べてはみます。全国市議会議長会に聞くなり、議長会に聞いてもわからんか。個別やもんね。

○ 諸岡 党委員

四日市市議会の議長任期を、今の何となくの感覚の中で、今、1年のやつを2年にしていこうと、これの方向性は、私、絶対に正しいと思っておるものでそうしていきたいんだけれども、その理屈づけが私はテクニカルな部分で難しいなと思っておって、よそがどうやってやっておるのか知りたい、その資料が欲しいという、そういうことなんですよ。

○ 豊田政典委員長

今すぐに調べが、多分ちょっと思いつきませんので。

○ 諸岡 党委員

またお願いします。

○ 豊田政典委員長

一度、調査依頼をしてみます。

正副委員長から設定したきょうのテーマはこの程度なんですけれども、もう一度、ほかに資料とか、こういうことを考えたらどうだとか、今後についてご意見があれば最後に出してください。

○ 加納康樹委員

この議論の途中で出ていた、今、四日市市議会でやっていることをまとめてほしいというのがありましたけど、それでどんなのがあるのかなと思っていて考えていて、議員政策研究会がある、所管事務調査がある、シティ・ミーティングがある。四日市市議会も現状

決算常任委員会でも附帯決議があって、それに対しての状況というのは理事者からも報告が来ているけど、その辺のタイムスケジュール的なものも当然あるし。

意見を聞く、政策を聞くというところで行くと、今現状、四日市市議会のモニターさんは持っているけど、あくまでモニター程度の使いしかしていないので、それをプラスアルファできるのか、そういうところができるのかというところ。

それと、形式的に年に1回だけやっている連合自治会さんとの意見交換。それも政策に関連するところだろうなと思うし。じゃ、考えると、連合自治会さんとはしかやっていないけど、その他いろんな団体との意見交換というのはあってしかるべきなのかなとか、政策反映と考えるというふうなところで、何か全体がまとまるとうれしいな、頭がついていきそうかなという感じなんですけど、思いつくままにです。

○ 豊田政典委員長

なるほど。対市民とか団体を含めて、広聴機能、広報も入るのかな、広報広聴機能、どんなことをやっているかは、広く四日市市議会の取り組みを、全体をちょっと整理してみようということですね。

○ 加納康樹委員

やっぱり、それなりに一応全部ぶわっとやっていくんだけどということで一覧にしてもらって、俯瞰することによってプラスアルファは何か導けないかというのも出てくるような。だから、さっき言ったように自治会さんとはしかやっていないけど、ほかの団体とか何かいろんなことも出てくるんじゃないのかなという気もせんでもないのというぐらいです。

○ 中森慎二委員

加納さんがおっしゃってもろうたことに、もう一つプラスすると、県議さんとの意見交換会をしていたり、あるいは北勢3町でしたか……。

○ 豊田政典委員長

1市3町です。

○ 中森慎二委員

1市3町、それから北勢5市議会の議長会の話とか、そういう広域的な政策的なものも、何か、そういう会議体としてできるものがあるのかどうかというのを、少し現状やっておる会議体から聞いてくるようなものも、今やっていることの中に一つ加えておいていただければありがたいです。

○ 豊田政典委員長

そうですね、全部入れましょう。

眺めながら考えればええので、一個一個触っていくわけじゃないですが。

○ 中森慎二委員

そうだね。

○ 豊田政典委員長

必要に応じて触りますけど、全部やるわけじゃないけど、全体を眺めるための資料をつくらうということなんですけど。

事務局、今のも含めて、作り方についての質問とか何かあれば、この際聞いておいて、これはちょっと無理だとか。

頑張りましょうか。いいですか。ちょっと三つ見直して。

どうぞ。

○ 栗田議会事務局主事

ちょっと議長の任期にところで、他市議会さんの理屈づけというふうな部分での資料というふうなことでございますけれども、こちらのほうは、恐らく市議会議長会としても把握しておるのは、慣例、申し合わせ程度だろうというふうなことで、あくまで、議長の任期といいますのは自治法上の決めというふうなことでございまして、それに反するような規定を条例とかに定めるということとはできないはずなので、なので、申し合わせとかというのが一般的だろうというふうに思っております。もし、ほかの市議会さんでそういうふうな申し合わせを明確化しておるようなところがあるとなれば、こういうふうな市議会の申し合わせの中に、そういうふうな一文があるというふうな程度だろうなというふう

に思っております、ちょっとそれ以上のお調べはなかなか難しいのかなというふうに、ちょっと今の段階では思っておりますけれども。

○ 豊田政典委員長

今の資料の調べ方なんですけど、何かこうして調べたらどうだという考え方はありますか、ほかに。なかなか難しいかなということですが。

○ 諸岡 覚委員

要するに、議長任期2年制を導入している議会に、素直に、それを明文化している資料は、例えば、それを条例で決めているのか内規で決めているのかを聞いて、明文化しているものがあつたら、その写しをくれと、それだけのことやと思うんですよ。

実は、意外とどこも明文化してないみたいなこともあるかもわからんし。ただの暗黙の、書面には何もないけど何となくの感覚で変えただけですみたいなものもあるかもわからないし、その辺のちょっと実情を知りたいなということです。

○ 豊田政典委員長

個別に当たれば答えてくれたりするのかもわからんですけど、私のざくつとした認識では、大半は4年じゃないと思うんですよ。それで、数的にはそっちのほうが多いと思うので、全部当たるのは大変かなと思うんですけど。

○ 諸岡 覚委員

じゃなくて、幾つかでいいんですよ。全部当たるとしたら何百ということになると思うので、そこまでじゃなくて、議長任期の2年制を導入しているところ幾つか、五つ六つ当たっていただいて、それで、明文化しているところがあれば、それはどこに明文化している。条例に明文化しているのか内規なのかわからんけれども、どこに明文化しているのか。それで、どんな文書なのかというのを。別に、世の中にある議会全部調べてほしいという話じゃないので。五つか六つ事例があれば十分かなと思っています。

○ 豊田政典委員長

それは、比率的には非常に少なくなるかもわかりませんが、問い合わせてもらって、そ

れを整理するぐらいはできますけど。

○ 諸岡 党委員

それで結構です。

○ 中森慎二委員

関連してですが、全国市議会議長会で、正副議長の任期について何か調べたのがあったよな、たしか。

○ 豊田政典委員長

あります。

○ 中森慎二委員

だから、そこからピックアップして聞いてもらったらいんじゃないですか。関西のほうも多いわね、2年制はね。関西のほうもね、結構2年制、多いですね。

○ 豊田政典委員長

少し答える。

少し事務局が補足的に答えてくれますので。

○ 西口議事課長補佐兼調査法制係長

先ほどお問い合わせの件ですけれども、全国市議会議長会のほうが毎年調査をする項目の中に議長任期というのもございますので、ちょっと、今、手元に資料を持ってきていないのですが、済みません、今、出てきました。

ちょっと口頭でお答えをさせていただきます。平成28年12月31日現在の調べになりますけれども、申し合わせ、慣例の有無があるかどうかという調査項目がまず1点。申し合わせ、慣例による議長の任期がどうなっているかという調査項目が1点、任期に関しての調査項目としてありますけれども、関係するので2項目ともちょっと申し上げますが、議長任期に関する申し合わせや慣例があるかないかという調べなんですけれども、全市814市議会ございまして、申し合わせ、慣例があるという市が79%で643市議会、申し合わせや

慣例がないと答えているのが171市議会です。21%になってございます。

次に、申し合わせ、慣例による議長任期でございますが、回答の項目といたしまして、任期が1年、任期が2年、そして、任期が4年と、この3種類あるわけなんですけれども、回答は、これは申し合わせや慣例を有しておる643市議会を対象に調査をした結果になっておりますが、643市議会中、任期が1年と回答しておるのが204市議会、割合にして31.7%、任期が2年と回答しているのが426市議会、割合にして66.3%、任期4年と回答している市が13市議会、割合にして2%というふうな状況でございます。

これ、今、ちょっと口頭のほうでご報告はさせていただきましたが、全国市議会議長会のデータのほうはございますので、これは改めて特別委員会の資料としてまた配信をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

以上です。

○ 豊田政典委員長

ありがとうございました。

今のを受けて、今のでいいですか、答え。

○ 諸岡 党委員

だから、全国市議会議長会がそこまでつかんでいるのはよくわかりましたので、例えば、1年任期って決めているところが204市議会あるわけでしょう。2年任期って決めたところが426市議会あるわけでしょう、申し合わせで。その申し合わせを、426市議会、2年というところがあるんやったら、その議長会を通じて、ちょっとそこから二つ三つでええんで、どんな申し合わせか、文言をちょっと取り寄せてもらいたいなど、それだけです。

○ 豊田政典委員長

できる限りやってみます。

ほか。副委員長、いいですか。

○ 中川雅晶副委員長

はい。

○ 豊田政典委員長

それじゃ、きょうの特別委員会は、ここまでとさせていただきますが、最後に日程を調整させていただかなければいけないので、皆さん、スケジュールを取っていただきたいんですが。

事項書の一番下に載っていますよね。

大変ご苦勞をかけるということを冒頭に言いましたが、その上で、無理を承知で8月いっぱいまでの5回分、ちょっとあらかじめ提案させていただきました。

この中で、どうしても都合がつかないという日がある方は教えてください。

○ 諸岡 覚委員

大変申しわけないんですけど、初回のこの7月10日だけ、どうしても都合がつかないんですけど。

○ 豊田政典委員長

両方とも。

○ 諸岡 覚委員

はい、午前、午後。ほかは全部いいんですけど。

○ 豊田政典委員長

ほかはどうでしょうか。ほかは調整いただけますでしょうか。

そうしたら、7月10日にかわる日はないですか。

○ 諸岡 覚委員

あえて言うなら、7月10日の午後がもう必ず無理なんですよ。午前は何とかかんとか都合をつけますので。

○ 豊田政典委員長

そうしたら、順番に確認していきますので、7月10日午前10時、これは次回です。

それから、それ以降は僕の希望では全部午後をしたいんですけど、調整していただけま

すでしょうか。

○ 諸岡 党委員

全部午後。

○ 豊田政典委員長

7月20日、8月1日、8月10日、8月22日、全て午後1時30分から。

○ 諸岡 党委員

はい。

○ 豊田政典委員長

7月10日だけは午前10時で、諸岡委員は、調整できる限りお願いします。

○ 諸岡 党委員

はい、頑張ります。

○ 中森慎二委員

日程はいいんですが、開始時間を、もし午前なら9時からにするとかやったらどうですか。

○ 豊田政典委員長

7月10日ですか。

○ 中森慎二委員

7月10日を、午前9時からスタートしたらどうですか。

○ 豊田政典委員長

ちなみに、諸岡委員は。

○ 諸岡 党委員

午前9時スタートで午前11時終わりが理想ですけど。

○ 豊田政典委員長

皆さん、7月10日に限ってですけど、どうですか。午前9時から11時という希望なんですけど。

(なし)

○ 諸岡 党委員

済みません、ご迷惑かけます。

○ 豊田政典委員長

済みませんが、じゃ、調整をお願いいたします。

○ 諸岡 党委員

ありがとうございます。

○ 豊田政典委員長

7月10日だけイレギュラーで午前9時から11時。あとは午後1時30分ということで。済みませんが、よろしくをお願いいたします。

じゃ、以上をもちまして本日の特別委員会は終了いたします。ありがとうございました。

11:16 閉議